

## 福島敏夫随筆集「乙戸南雑話『花鳥風月および星・虹を愛でながら』

主宰論説 53

### 2つの白浜：岬の町

白浜という名を持つ岬の町は、偶然か、太平洋と東京湾、太平洋と大阪湾の境目の突端に、2つある。

房総半島に有る白浜は、『白鳥灯台』もあり、外洋の太平洋と、内海の東京湾の波が打ち寄せ、海の色が、真っ青な色と、淡い水色とが良好な対照をなして見える。(昔、叔母が病に伏したとき、一人でこの白浜を訪れた際に、この絶景スポットで、はるか空と海の重なる水平線を眺めながら、『大空を遠く飛びゆく白鳥に託して君の治癒を祈らん』という短歌を作った覚えが有る。) 近くに『フラワーパーク』等もあり、早くから春の菜の花が咲き出すようで、外房での車でのドライブを楽しむ人々も多いようである。約15年前の春に、成田山経由で、家族で、この房総白浜の町を訪れたことがあった。当時は、かなり、閑静ではあるが、旅館らしきものも少なかったが、今は、ホテル等も多いリゾート地になっているようだ。千葉県館山市から見た富士山の映像も、Facebook等で提供されることもあるが、この白浜からは、富士山の遠景は、見えるのかしら？

南紀と言われる和歌山県の白浜は、太平洋と大阪湾の境目の突端にある岬の町である。やはり。真っ青な色の太平洋と淡い水色の大阪湾とが良好な対照をなす絶景スポットである。約50年前の新婚旅行で、南紀巡りをした際に、訪れている。勝浦、串本などの町とも連なる南国の観光の拠点でもある。当時最高級のホテルを手配して貰ったが、晩御飯の時、透明に近い『白魚』のつくりが出され、心して食した記憶がある。

その後、結婚30周年の時、貯まった日本航空のマイレージ・ポイントを利用して、羽田空港から南紀白浜空港まで行き、いろいろな観光スポット巡りを行った。南方熊楠記念博物館は、閉館中で訪れることは出来なかったが、千畳敷などの断崖の絶景スポットを訪れ、感慨に耽った。また、アドベンチャー・ワールドを訪れ、いろいろな動物の生態を楽しんだ。当時、パンダは、11頭ぐらいいて、賑わいの元になっていたようだ。

いずれにせよ、南房総白浜と南紀白浜は、岬の町として、良好な対照をなすようである。